

令和7年度「『学習する都市』推進予算」 社会教育・参加と協働のさらなる推進を

2月19日から3月27日にかけて第1回定例会が開催され、令和7年度予算は「学習する都市」推進を掲げ、過去最大規模の3,996億1,700万円（前年度比+280億6,600万円）となりました。

日本共産党世田谷区議団は、令和7年度一般会計、国民健康保険事業会計、介護保険事業会計及び学校給食費会計予算に賛成し、後期高齢者医療会計予算に反対しました。

私は、議会を通して、学習する都市推進のための社会教育、参加と協働の推進の取り組みを求め質問しました。

社会教育の後退・区民への負担増となる 施設使用料値上げに反対

管理運営費の増加を理由に施設使用料値上げの議案が提出・可決されました。

これに対し、区議団は、「『学習する都市』推進予算」だということならば、区民の自主的な活動、社会教育を支援すべきであり、区民生活が厳しい中の値上げは逆行していると主張し、全ての値上げ条例に反対しました。

住民の福祉の増進が「金次第」でよい？

施設使用料の見直しは「受益者負担」の考えが盛り込まれた「適正な利用者負担の導入指針」に基づいて進められてきました。しかし、それでは負担能力の低い住民が公共サービスを受けられなくなる恐れがあります。

昨年の決算特別委員会で「指針」見直しを求め、区は、見直しを表明しました。

今回は、「指針」の受益者負担の考え方を転換することを求めました。

しかし区は、施設の維持のために利用者に運営費を負担してもらう必要があると考えている。今回のような福祉的な配慮による使用料等の減免などを参考にすると答弁しました。

福祉の増進が「お金次第」でよいのかが問われています。

施設使用料改定の考え方の転換を

当初、公共施設は無料でした。もともと公共施設は住民の共有財産であり、建設や運営費は税で賄うべきです。

運営費の一部負担はやむなしとの世論の中、使用料の値上げが繰り返されてきました。

今後は「学習する都市」推進にふさわしく、社会教育の観点から使用料改定の考え方を見直すべきです。

図書館を中心とした社会教育の推進を

社会教育は住民の課題解決や意識の変化を支援する重要な役割を担っており、区の基本計画でも重視されています。

社会教育法では「図書館及び博物館は社会教育のための機関」としています。しかし、区の教育振興基本計画では図書館が社会教育施設として位置付けられておらず、取り組みが不十分です。

議会では、図書館を中心とした社会教育の推進と地域行政との連携強化を求めました。

区は、学校や図書館のみならず、区長部局とも連携しながら、区民の誰もがあらゆる機会、あらゆる場所を利用して、生涯にわたって学び続けられる環境づくりに努めていくと答弁しました。



高城

くにこ

2025年4月号

こんにちは たかじょう訓子です！

日本共産党世田谷区議会議員 問合せ先：日本共産党区議団

〒154-0017 世田谷区世田谷4-21-27 tel:03-5432-2791 fax:03-3412-7480 携帯:090-6655-2003

北烏山7丁目周辺

「日本女子体育大学前」停留所 安全なバス待ち環境整備を

今年2月12日、北烏山の地域住民の皆さんは、区長宛に「『日本女子体育大学前』バス停留所拡幅に関する陳情」を提出しました。

『日本女子体育大学前』停留所は、吉祥寺駅・千歳烏山駅区間を走る小田急バスの停留所で、北烏山7丁目付近の烏山通り沿いにあり、東側には「(仮称)北烏山7丁目緑地」整備区域が隣接しています。

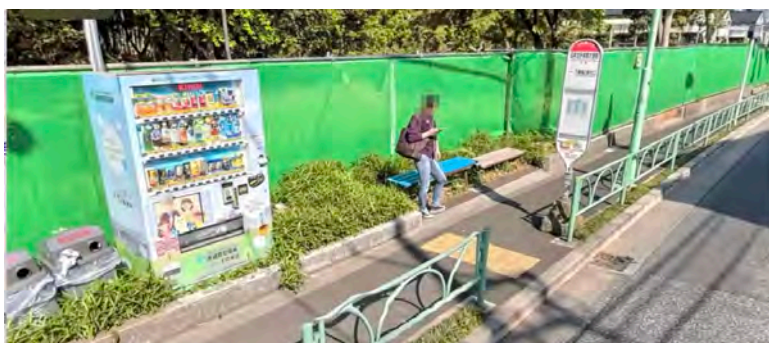
このバス停は歩道が狭く、特に雨天時には混雑し安全性が懸念されています。陳情は、安全なバス待ち環境の整備や上屋設置を求めるものです。

議会では、歩行者スペースの拡幅やベンチ・上屋の設置、地域住民との協働による改善策の検討を通じ、安全な街づくりを進めることを求めました。

住民との参加と協働で実現に向けて検討

区は、実現に向けて「警察との協議などが必要だが、バスベイを、烏山通りの歩道幅員の現況1.7m以内で整備した場合、隣接する緑地内の園路を外周に設けることにより、道路側の歩行者空間も整備することは可能と考えている」とし、「緑地整備計画の中でバス待ち環境の整備を位置付けている。庁内の関係所管との会議体においても検討する」「今年度も、緑地整備に向けたワークショップを3回開催し、さらに緑地での現地体験のプログラムや子どもワークショップの実施を予定しており、より一層住民協働での緑地づくりを進めていく」と答弁しました。

一方、道路の反対側のバス停については別途対応が必要で、地域住民と区の間で課題の共有、検討が求められます。



祖師谷住宅の建替え工事

住民の生活環境を守れ！

祖師谷2丁目のJKK祖師谷住宅では、2038年度まで建替え工事が予定されており、現在第1工区（東側）の解体作業が行われました。

この間、1日最大40台の工事車両が通行し、住民からは騒音・振動・交通安全・生活道路の劣化などへの不安や苦情が寄せられています。

今後の第2工区以降では、商店街を通行経路とする案も検討されており、影響がさらに広がる可能性があります。

議会では、相談内容は、土木課や環境保全課など複数の所管に関わるため、区には個別対応に加え、全体的な問題把握と調整を行うことを求めました。

区は、「相談窓口としてしっかり受け止め、関係所管と共有しJKKに対応を求めるなど、必要な調整に努めていく」と答弁しました。

この間、区、JKKは「祖師谷住宅・周辺住民有志の会」の働きかけに応え、積極的に懇談の機会を設けてきました。参加と協働のまちづくりをいっそう進めるよう求めています。

トラブル続出！

英語スピーキングテスト結果入試活用は中止を！

東京都教育委員会による英語スピーキングテストが2023年11月に都内の公立中学3年生約7万人を対象に実施されましたが、音漏れ、機器不具合、長時間の拘束など多数の運営トラブルが報告され、保護者団体や都議らが謝罪と調査を求めました。しかし都教委は「適切に実施された」とし、調査には応じていません。

スピーキングテストは中学1・2年生にも導入されており、世田谷区では業者が機材と監督者を提供し、保護者が専用サイトで申し込みを行う形で実施されています。区は全体状況は都が集約しているため把握していないものの、申込フォームの不備や機器トラブルなどの問題が報告されていると説明しました。

議会では、区での現状を把握し必要な意見を都教委に伝え改善等を求めるよう訴えました。

区は、外国語教育での4技能重視の観点からテストの導入自体には一定の合理性があるとしつつも、運営上の課題による生徒や保護者への負担を重く見て、東京都に改善を要望すると答弁しました。

本来入試は厳正に行われ、なによりも公平・公正さが保障されなければならないものです。スピーキングテスト結果の入試活用を中止するべきです。